

第3学年 組 保健体育科学習指導案

福岡市立 中学校
指導者

1 単元 「球技」ソフトテニス

2 指導観

- 本単元で取り扱うソフトテニスは、ネットをはさんで相対するプレーヤーが、2対2（ダブルス）あるいは1対1（シングルス）形式でラケットを使ってゴム製のボールを打ち合いながら、互いに得点を競い合うスポーツである。ラリーが続いたり、技能が高まることにより、一層楽しさが増すとともに、手軽に安全にゲームができるスポーツでもある。また、競技としても、レクリエーションとしても、性別や年齢を問わず幅広い関わり方ができる。こうしたことから、生涯スポーツのひとつとして、広く一般に浸透しているスポーツであることも理解できる。そこで、カリキュラムの中ではあまり触れることができない競技種目であるソフトテニスを取り上げ、運動は好きであるが保健体育に関する関心や意欲の低い生徒でも、仲間同士で課題を指摘し合ったり、設定したり、また技能の向上に向けて教え合ったりすることにより、生徒相互の信頼関係を育むことや、運動の楽しみも味わうことができる。ルールやマナーを守ることの大切さや、勝敗に対する公正な態度を身につけることは、将来の社会生活における望ましい態度や行動の育成にもつながり、人間形成に役立つ学習になると考える。
- 本時の対象となる生徒は、組（男子 名、女子 名、計 名）、組（男子 名、女子 名、計 名）、組（男子 名、女子 名、計 名）は、体育会などの学校行事で好成績を収めるなど、学級の団結力が高く、何ごとにも懸命に取り組む、元気のある学級と言える。また運動部への入部率は 人（64.9%）に至っており、運動・スポーツに対する興味・関心は高く、積極的に授業に取り組むことができる。この中で1学期のコース選択オリエンテーションにおいて、4 コース（バレーボール、ソフトボール、ソフトテニス、剣道）の中からソフトテニスを選んだ男女 名の生徒を対象に事前アンケートした結果によると、球技種目を実際に行うことが好きな生徒が 94.0%にのぼる。その主な理由として「勝敗があつて友達と競うことができるから」、「ボールを打つ（使う）ことが楽しいから」、「いろいろなルールや戦い方があって作戦を立てるのが楽しいから」などの理由が挙げられている。さらに多くの生徒が「テニスが好きだから」、「見ているとやりたくなるから」、「やっていて楽しいから」を理由にソフトテニスを選んでおり、この種目に対する興味関心が高いことを示している。
- 本単元の指導にあたっては、基本的なボール操作や安定した用具の操作、仲間と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する中で、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わわせることを目標とする。学習スタイルとしては、男女別のペアやグループで学習を進め、生徒相互に「仲間から学ぶ意識」の向上を図りたい。そのためにまず、オリエンテーションを行い、ソフトテニスの特性や学習の進め方を理解させる。また、ペアやグループの編成では、ペアは技能が同等程度同士、グループは技能の高いペア、中程度のペア、低いペアの3ペア、6名で編成し、各グループの力が同じ程度になるように編成する。次に、安定したラケット操作を身につけ、空いた場所をめぐる攻防から、簡単なゲームを楽しむことを目指させる。この時、安定したストロークやラリーを長く続けるために、気づいた点を相手にきちんと伝えさせ、お互いに学び合い、技能を高め合うように指導する。さらに、ボールを持たないときの動きを身に付けゲーム団体戦を通して、ソフトテニスの楽しさを味わわせる。最後に、単元を振り返らせ学習ノートにまとめをさせる。その際、仲間と一緒にアイデアを出しながら作戦や戦術をたてたり、工夫したりしたことから得られる達成感や充実感、ゲーム中の仲間の声援、励まし、支えの大切さなど実感したことをまとめるように支援する。

3 目標

- 球技の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わうことができるように進んで取り組もうとする
- グループにおける自己の役割を自覚して責任を果たし、互いに協力して練習やゲームに参加することができる。
- 運動の特性に応じた課題を設定し、解決の仕方を身につけることができる。
- 個人やグループの能力や実態に応じたゲーム方法を選び、その中でサーブ、スマッシュ、ロビングなどを使った課題練習や、ゲーム運営を通して、個人・集団の技能を高めることができる。
- ソフトテニスの技能やルール、審判の仕方やゲームの進め方を理解するとともに、安全についての知識を習得することができる。

4 計画（15時間）

関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：技能 知：知識・理解

次	時	学習活動・内容	目標達成のための手だて	評価規準
一	2	<p>オリエンテーションを通して、ソフトテニスの特性や学習の進め方を理解させる。</p> <p>○学習ノート作成・利用方法等</p> <p>○ペア、グループ編成、係決め</p> <p>○運動の特性や学習のねらい、計画、内容を理解する。</p> <p>○用具施設の利用の確認</p> <p>○ゲームの運営、審判の方法</p> <p>○アンケート記入</p>	<p>○学習ノート、記録カードを作成し、学習の進め方、記録の仕方を説明する。</p> <p>○ペアは技能が同等程度同士、グループは3ペア（技能：高・中・低）6名で編成させる。</p>	<p>関：教科書や資料を参考に、ソフトテニスに関心を持つことができる。</p> <p>知：ソフトテニスの特性と学習の進め方を理解することができる。</p> <p><様相観察></p> <p><様相観察></p>
二	6	<p>安定したラケット操作や空いた場所をめぐる攻防から、簡単なゲームを楽しむ。</p> <p>○ストレッチ、補強運動、用具への感覚を養う運動を行う。</p> <p>○安定したラケット操作を身に付ける。</p> <p>○チーム内でアドバイスをを行う。</p> <p>○技術のポイントを確認する課題解決へ向けたドリルゲームを行う。</p>	<p>○ボール操作として、各種キャッチボールをさせる。</p> <p>○ラケット操作として、ボールつき、ドリブル、ネット打ち、ワンバウンドボレー、ショートラリー、乱打をさせる。</p> <p>○安定したストロークに必要なことやラリーが続くために必要なことをグループで考えさせる。</p> <p>○ゲーム内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半面シングルのゲーム ・2バウンドゲーム ・ポイント限定ゲーム 	<p>技：ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。</p> <p>思：仲間に対して技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘することができる。</p> <p><様相観察><ノート></p>
三	6	<p>ボールを持たないときの動きを身に付けゲームを楽しむ。</p> <p>○仲間と連動したフォーメーションを維持して攻防を楽しむ～</p> <p>○チーム内でアドバイスをを行う。</p> <p>○課題解決に向けたタスクゲームを行う。</p> <p>○空いた空間を作り出す攻防を中心にゲームを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終団体戦を行う 	<p>○空いている場所へカバーする動きやフォーメーションを維持する動きを身に付けさせる。</p> <p>○前衛と後衛の動きについて考えさせる。</p> <p>○約束ポーチゲームや約束ロビングゲーム、約束ダブルスゲーム（3球目攻撃・5球目攻撃など）をさせる。</p> <p>○試合の運営、審判を行わせる。</p> <p>○学習ノートの整理をさせる。</p>	<p>技：ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。</p> <p>思：作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶことができる。</p> <p>関：練習やゲームで、必要な役割を積極的に引き受け、主体的に取り組もうとする。</p> <p><ゲーム観察></p> <p><ゲーム記録></p> <p><様相観察><ノート></p> <p><様相観察><ノート></p>
まとめ	1	<p>○ソフトテニスについて振り返る</p> <p><自己評価、感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだこと ・仲間と取り組むソフトテニスの感想 <p>○次の授業に生かす</p>	<p>○学習ノートや記録カードを参考に振り返えさせる。</p> <p>○仲間と取り組むことの大切さを理解させる。</p>	<p>関：学習を振り返ることができる。</p> <p>知：ソフトテニスを通して仲間と一緒に取り組むことの大切さを理解することができる。</p> <p><様相・プリント></p> <p><様相観察><ノート></p>

(1) 本時の指導観

生徒は前時までに安定したラケット操作の習得に取り組んできた。特に、スイングの安全性を確保するため、ラケットを使った体ほぐしの運動など、ラケットの正しい振り方や力強く振るための体の使い方、さらには周囲の状況に気を配ることについて学習させてきた。しかし、意欲的に取り組んではいるものの、安定したラケット操作の定着には至っていない生徒も見られる。特に、空いた場所をめぐる攻防からフォーメーションを維持する動きは簡易ゲームでもほとんど使われていない。

そこで本時では、主にラケット操作およびラリーの練習を行い、ボールを持たないときの動きからの攻防を身に付けることをねらいとする。そのためにまず、安定したラケット操作につなげる準備運動を行う。次に作戦を生かしたゲーム展開を目指して、前衛と後衛のポジションを確認していく。さらに、4ポイント先取のゲームを行い、技術のポイントを確認していく。最後にペアごとに本時を振り返らせて、次時につなげていきたい。

(2) 主眼

○ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。

○自己のチームや相手のチームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶことができる。

(3) 準備

①ラケット ②ボール ③個人ノート ④作戦ボード ⑤ホワイトボード ⑥コーン

(4) 過程

学習活動・内容	準備	手立て<○>と評価<◇>	形態	配時
1 学習の準備をする。 ○コート・用具の準備 ○準備運動を行う。 ・号令走, ラジオ体操 ・ボールやラケットでの準備運動	①② ⑥	○リーダーを中心に、準備運動を効率よく行わせる。 ○以下の準備運動を選択させて行わせる。 ・左右でのキャッチボール ・手打ちラリー ・ネット際でのポンポンラリー ・サービスラインからの短いボレー・ラリー ・ベースラインからのコーンをねらったラリー ・クロス展開からのポーチボレー	グループ ペア	15
2 本時のめあてと流れを確認する。 ○挨拶, 出席確認 ○めあてを確認 <学習のめあて> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">自己や相手チームに合わせた 作戦を立ててゲームを行う。</div>	③⑤	○本時のめあてと学習の見通しをもたせる。	一斉	5
3 ゲームに向けて作戦を話し合う。 ○これまで学習した返球のしかたを活用し、ペアで作戦を立てる。 ○作戦を発表する。	③④ ⑤	○約束ごとを確認させる。 ・後衛は、空いている場所をねらって打ち返す ・前衛は、相手後衛の正面にポジション取る。	グループ ペア	5
4 ゲーム(グループ内)を行う。 ○ルールの確認をする。	①② ③④	○以下のルールで行わせる。 ・1ゲームマッチ(4ポイント先取) ・サーブが入らない場合は前から打ってもよい。 ○コートの横の人と接触しないように、自他の安全に十分留意させる。 ○ゲームの終始には、声を掛け合って行わせる。 ◇技: ボールに変化をつけてねらった場所に打ち返している。 <様相観察><ゲーム観察> ◇思: ペアや相手チームの技術的な課題を指摘している。 <様相観察><ノート>	グループ	15
5 整理運動・用具の片づけを行う。 ○グループごとにストレッチを行う。 ○役割分担して、片づけを行う。	③④	○心身を十分にほぐすようにさせる。 ○協力して、手際よく片付けさせる。	グループ	5

<p>6 本時のまとめと次時予告を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゲームの結果，ノートの記録をもとに，相互評価を行う。 ○学習の成果や課題などのまとめを発表する。 ○教師の評価を聞く。 ・まとめ ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習を振り返り，個人，グループの課題や解決方法について理解させる。 ○学習課題に対する自分の考えをまとめ，発表させる。 ○学習成果のあがっている生徒や多くの課題を抱えている生徒を指名し，工夫や課題解決の手立てについて情報を共有できるようにさせる。 	<p>一斉</p>	<p>5</p>
---	---	-----------	----------